

マスク着用などこれまでの感染予防策徹底の継続を強く求めた竹井会長



— 今年一年の島内における新型コロナウイルス感染状況を振り返って。

今年の宮古は、世界で一番ひどい感染状況の時もあったが、島民の協力のおかげで医療崩壊には至らず何とか乗り越えた。

もちろん、なったり、島外に搬送された患者もいたが、一番ひどい状況の時を踏まえても脆弱（せいじやく）な離島医療の中においては、最小限の被害に止められたと思う。

感染予防対策の徹底訴え

竹井太会長（地区医師会）

コロナ禍の1年振り返る

まだ、データがそろっていないのでなんともいえないが、基本はあまり恐れずこれまでと同様に3密防止、マスク着用、手指の消毒を心掛けることが大切。

— 11月以降、比較的宮古は落ち着いた状況が続いている。その要因は、やはりワクチン接種が進んだ影響は大きいと思う。

さらに、世界的に見ても日本が比較的落ち着いた状況になったのは、日本人の真面目さがあると思う。

島民一人一人、日本人全体が自覚を持って3密を避けてマスク着用を継続して、こまめな消毒を心掛けたことが大きい。

ワクチン接種後も、従来の感染予防策の原則を守り続けたことで、感染拡大を抑止できてきたと思う。

世界的に猛威を振るっているオミクロン株への対応と、



コロナ禍において必須アイテムとなったワクチン、マスク、消毒液